

【 第3回中標津町自治推進会議報告 】

日時：平成31年3月12日（火）19:00～21:06

場所：中標津町総合文化会館 2階 第3研修室

出席者：11名（中標津町自治推進会議委員5名、ファシリテーター1名、事務局5名）

<会議次第>

1 開 会

2 挨 拶

3 議 題

（1）前回の会議の振り返り

（2）来年度以降の自治推進会議について

（3）振り返りと確認

（4）その他

4 閉 会

<配付資料>

① 平成30年度第3回中標津町自治推進会議次第〔省略〕

② 自治基本条例・自治推進会議2021年度（平成33年度）までのスケジュール〔省略〕

③ 条例の見直し検討に関する資料（2021年度のこと）〔省略〕

<会議結果報告>

1 開 会

2 挨 拶：佐々木会長

※議題に入る前に、事務局より本日欠席された委員の報告を行いました。

3 議 題 〔進行：東田ファシリテーター〕

（1）前回の会議の振り返り

⇒ 東田ファシリテーター

今日の議題は、来年度・再来年度を考えること、スケジュールと内容を考えること。

前回は、勉強会をしたが、勉強会に参加されていなかった方もいるので、少しだけ振り返りをして、その後話し合いができれば。

勉強会について

◆ここで、前回会議で事例紹介を行った3人より改めて概略の説明がありました。

(勉強会資料、第2回会議報告、勉強会内容整理資料を参照しつつ、質疑応答も行いました。)

○東川町：佐々木会長からの事例紹介

全町内会連合会の関係で、東川町の人と話し合いをしたことをきっかけに、調べてみようと思った。東川町の自治基本条例は、平成27年につくられていて、比較的新しい。

【地域自治振興区】というものがあって、そこには権利もあって、予算もついて行っていることが分かった。振興区の中では、一つひとつ地域コミュニティというものが独立したかたちで行っている。しかしながら、【かたち】をつくっただけという声もあるようだが…。

⇒ 東田ファシリテーター

でも、【かたちをつくったこと】は偉いということ。

⇒ 委員より

東川町は、とても人気のある町だと思う。移住者が多いのはなぜなのか？このことと関係があるのだろうか？

⇒ 佐々木会長

写真のまちとして写真甲子園がスタートした。それを一つとして売り出したこともあるのでは。そこに、うまく【まちづくり】を乗せることができたのではない。町長の力ではとも思う。そして、そういうまちだから、様々な施策を打ち出して、移住者が増えてきたのではない。中身の検証まではできていないが、そう思う。

⇒ 東田ファシリテーター

ハード系についても【特殊なまちづくりをしている】と思う。

おしゃれなデザイナーが、学校や複合施設のデザインをしている。建物のデザインをして、そのデザインが賞を獲る。すると、今度は、そのデザインを他所からプロの建築家が見に来る。すると、『いいね』となる。デザイン重視。町民は、実のところ、使いにくいと思っていても、言いにくくなってしまっている様子もある。町外の自分が「使いにくい」と言っている。

⇒ 委員より

- ・旭川市から隣という立地もあるのでは。
- ・衛星都市だから。隣の旭川には、仕事も大学もある。

⇒ 東田ファシリテーター

建築関係とか、デザイン関係の会社が圧倒的に多い。そこが優れているから、集まっていく。雑貨屋ができたり、設計事務所ができたり。設計会社が、雑貨屋を開いたり、パン屋を始めたこともある。

⇒ 東田ファシリテーター

東川町へは、デザイナー関係者や建築関係者などが賞賛に毎度訪れる。

ワークショップをして、管理者を決めることや、町民の意見を入れてデザインを決めていくというプロセスは踏んでいる。

【デザインのまち】ではあると思う。戦略的にデザインに対して力を入れているまちだと。

⇒ 佐々木会長

だから、若い人に受ける。

⇒ 委員より

雑誌などでも取り上げられている。

○ニセコ町ほか：本間副会長 からの事例紹介

中標津町の自治基本条例をつくるときも参考にさせていただいた。

現衆議院議員の逢坂誠二氏がニセコ町長の時につくられた。

これまでに条例改正は4回。[助役→副町長]への名称変更等もあるが、条文自体の追加も。

ニセコ町は、元々様々な活動を行っていて、それを担保するために条例をつくったという経緯がある。そして、当時の逢坂町長が、どんどん良い風に変えていき、町民の人達もそれを「維持したい」、町長が変わっても「それを維持したい」と思い条例をつくった。追加された条文には、中標津町にはない内容もあるが、全部をニセコ町と同じようにする必要はないと思う。中標津町に必要なものは何かということ、今回この機会に自治推進会議で考えていくことができれば良いのではと思う。

中標津町の自治基本条例をつくるときに、参考に話を聞かせていただいた石狩市と苫小牧市の自治基本条例についても、今回、その後を調べたが、改正はされていなかった。

元々自治基本条例は、『育てていく条例』として始まっているので、他の一般的な条例と違うこととしては『変えることを恐れない』ということが一番大事ではと、今回調べて思った。

⇒ 委員より

ニセコ町は観光のまちで、最近外国人が土地を買って、占領しつつあるという印象がある。勝手なイメージだが、子どもたちは、卒業すると地元を離れて町外に出てしまっているのでは。そのような中で条例を『育てる』として、どのように育てているのかなと思う。

⇒ 本間副会長

北大教授など有識者も入って、[現時点で、こうだ]という条例をつくっている。【その時のベスト】と、5年10年経って[今、必要]というものを追加している。追加がたくさんある。

⇒ 東田ファシリテーター

【ニセコ町まちづくり基本条例手引き】を見ると、見直しの経緯がきちんと書いてあり、何を追加したかが書いてある。最初は、とても簡素なものだった。そこに必要な部分を追加していったような感じがする。

⇒ 本間副会長

中標津町の条例をつくったときも「未成年」の扱いをどうするか話し合いをしたが、その条例の箇所が、ニセコ町では、もう少し細かくなっている。

⇒ 東田ファシリテーター

議会について、中標津町では、議論を始めた時から、議会側から『入れてほしい』との要望があり、最初から「入れましょう」となった。ニセコ町は、最初は入っていなかった。途中で議会についての条文を入れている。

最初は、簡素なものだったが、それに徐々に追加していったという経緯がはっきり見える。

⇒ 本間副会長

「子ども」については書いているけれど、外国人についての記載は特になかったように思う。

◆ここで、ニセコ町と倶知安町ニセコ地区の話題になりました。

⇒ 東田ファシリテーター

行政区域としてニセコ町に住んでいるかどうかということになる。もちろん、ニセコ町にもいるけれど、外国人は、圧倒的に倶知安町に多いのではと思う。

羊蹄山の周りの自治体から景観のことで講座の講師の依頼があり、何度か行くことがあった。そこは、景観の重点区域（羊蹄山麓広域景観形成推進地域）になっていて、講座の中でも、外国人のことは、言いたくても言えないという微妙な空気感だった。

⇒ 委員より

遠慮しているのか？あえて、触れないようにしていたのか？

⇒ 東田ファシリテーター

両方ではと思う。現状が分からないので、自分もどこまで言っているのかと思った。個人の土地を売買することは、個人の自由であるし……。そこまで、条例で「ダメ」と言っていないから、買われているという現状も分かっているし……。中標津町のように景観重点区域として開陽台の周りを決めているわけではないし……。ということを知っているので、「困ります」とはっきり言うと、周りの人は笑っていた。

⇒ 委員より

そのことの深いことを知りたい。

⇒ 東田ファシリテーター

自分も知りたいと思う。その時の講座のパネリストには、ニセコ町と倶知安町で活動されている方も来ていたが、その方達に「どうですか？」と聞くわけにもいかず、全体に向かって「どうですか？」と投げかけてみた。みんなは笑っていた。

⇒ 委員より

笑ってごまかしていた？

⇒ 東田ファシリテーター

どちらからと言うと、そうなのではと感じた。その時には、空き家対策の事業をしている NPO の方も来ており、その方だけが、はっきりと答えてくださった。『ダメとも言えないし、個人の売買をブロックできるほどの条例にもなっていないんですよね・・・』と。自分は呼ばれている講師側なので、「それで、いいでしょうか？」と言うに留まったが。

難しいことである。今は完全に、日本ではないような一角がある。それも一つではなく、複数で来ているので。その一角に入ると、そこが倶知安町、ニセコ町と分かっているけど、日本語が全く通じない地域がある。

⇒ 委員より

・一緒の話し合いなどはあるのか？ ・国際交流などはあるのか？

⇒ 東田ファシリテーター

今はなっていないよう。

そういう話し合いがなされていたら、あのような一角にはならないのではと思う。完全に日本人を排除した区画になっているし。

防災の関係で、そこで何かがあったとき、そこも含めて何かがあったときにも『言いようがない』ということ。オーナーも違う国の人で、そこに住んでいる人も違う国の人。何の言葉を使うか、何の言葉が通じるか、一つひとつで違うので。英語圏もあれば中国語圏もある。

不動産業、ホテル業、自分の別荘を買っている方もいる。もの凄いお金持ちで、レベルが違う。千歳市の景観アドバイザーもしているが、市街地と支笏湖の間の辺りも買われている。小樽市も買われている。歴史的建造物の土地についても。中国系企業で、現地法人は日本人だが、社長は中国人。そういうところがドンドン来たときにはどうすればいいのだろうかと思う。

⇒ 委員より

・まちの中にまちがあるということ？

⇒ 東田ファシリテーター

租界のような感じ。同じ国の中だけれど、同じまちの中だけれど違う場所。全く、言葉が通じない。誰が住んでいるのか、誰が管理しているのかも分からない。仮に、その部屋を借りたとしても、そこから言葉が通じない。

⇒ 委員より

- ・地元でも、『そこには近づかないように』となっているのでは。
- ・倶知安町は、うまく話をしているのではないか。
- ・中標津町でも冬まつりでは、ベトナム人の研修生が雪像づくりに参加していた。

⇒ 東田ファシリテーター

どこかの時点で、そのまちで【取り込んでいく】しかないと思う。完全に違う国の文化が間違いなく入っている。その一角が、完全に英語圏や中国語圏となっている。

外国人のことは、自治にも大きく関係してくるので、一緒にどう収めていくか？ということになるのでは。例えば、日本の行政区としては中標津町だから、そのルールに従っていただかなくてはならない部分と、その必要がない部分とがある。お互いに価値観を認め合ってということでは。行ってもらわなければならないこともある。逆にこちら側が、譲らなくてはならないこともあるのかもしれない。どこを譲らなければならないのかは、まだ分からないけれど…。

⇒ 委員より

どう仲良くしていくかということなのでは。

⇒ 東田ファシリテーター

小樽市はとても来ている。国家予算並みのお金を持って『買いますから』とバーンと来る。その金額にビビってしまう。ダメとは絶対言えない。全然、景観計画の中に入っていないので、「どうぞ買ってください」としか言いようがない。

働きに来ていただいて、地元の企業の中に入ってくるのであれば、きっと良いと思う。そうではなくて、土地から建物から買い取って【来る】ので、様々な弊害が出る。

小樽市の事例では、「日本人だけにしか売ってはダメ」とは言えなかった。千歳市もそう。自然が大好き。ドラマや映画の撮影場所になると『そこを買いたい』と言う方も多いらしい。倶知安町やニセコ町もそうだが、小樽市では、歴史的建造物などがもの凄い勢いで持って行かれてしまう。「自治とは難しい」と改めて思った。

○静岡県牧之原市：東田ファシリテーターからの事例紹介

まちづくり活動を行っていて、様々な市町村に関わらせていただいたり、相談を受けさせていただいているが、その中でも【一番、日本で自治が進んでいるまち】として紹介されるのが【牧之原市】であり、「どういう風に進んでいるのか?」「どういふかたちで進んでいるのか?」と疑問だった。

↓

牧之原市で市民ファシリテーター養成講座の講師を務める方とも知り合う機会があって、9月と11月に牧之原市に直接行って、仕組みづくりや実際その仕組みの中で、市民ファシリテーターとなった本人達とも会ってヒアリングを行った。実際に活動している様子も見せていただいた。

2つの公立高校の高校生と市民ファシリテーターが、地元の大人達と、【いろいろな事業をしていきたい】とのことで、高校の中でその話し合いをしているところを見学した。例えば、「お祭りを活性化させたい」「アートのプロジェクトをしたい」など様々なグループがあった。

牧之原市が、どうして自治が進んでいると言われているのか、

日本一と言われているのか?

↓

※市町村合併があったことで、そのタイミングで、仕組みをつくることができたから。

↑

当時の市長であった西原市長が、『市民ファシリテーターを増やしていきたい。それが、これからの牧之原市にとって一番大事』ということ、をはっきりと鶴の一声で言ったこともあった。市民側からも『合併に向かって、良いまちづくりをしていきたい』との要請もあった。

【市民ファシリテーター】と言うと…、

ファシリテーション研修を受けて、実際にもう「行っている」、
すぐできるわけではないけれど、「方法が分かる」「知っている」人も
たくさんいるが、そのような人達のことを言っているわけではない。

↓

※市役所にきちんと『登録をする』という仕組みがあること。

牧之原市の市民ファシリテーターは、登録制になっていて、45人程いる。
例えば、町内会で話し合いがある、学校で話し合いがある、連絡協議会で話し合いがある、NPOで話し合いがあるという時に登録者に依頼をして、その人達がボランティアで話し合いの場に登場するというもの。登録制の仕組みができていているということ。
ファシリテーターの依頼要請は直接でも良いし、市役所にしても良い。
交通費は支払われるが、人件費の報酬はない。6時間の養成講座を受講すると、誰でも登録することができる。

ファシリテーター登録者同士の繋がりもある。1期生から3期生までいる。それぞれにスキルアップや、実際のファシリテーションを通じての「ここがうまくいかなかった」などの勉強会や情報交換もその中で行われている。

凄と思ったこと!!

・話し合っている人達も牧之原市の市民であり、ファシリテーションを行うのも市民ファシリテーターである市民。【全部が市民で回っている】ということ。

・決めようという気持ち、合意していくという気持ち、例え合意できなくても、『今回は、こういう理由で合意できなかったよね』ということをお互いに見合って、納得しながら進めているということ。

会議ファシリテーションを勉強している方、実際にファシリテーションをしている方も多くいるが、市の仕組みとして、行政と一緒にいるというのは牧之原市だけで、日本一だということ、自治が進んでいるということは、こういうところだと理解した。

※市民ファシリテーターという言葉は、誰でもなることができそうなイメージなので、『牧之原型市民ファシリテーター』と名付けた。

そもそも、町内会の人達が、市民ファシリテーターを依頼することが凄と思った。どういう風にして、仕組みをつくることができたのか？

市町村合併の時に【自治会組織のあり方検討】として、合併する双方の全部の町内会を対象にして、特に会長副会長の役員により、1年半の期間をかけて話し合いを行った。

今どんな課題があるか？どういう風に変えていきたいか？ということなどをたくさん話し合ったそう。財源があるかないか、財源をどうするか、再編をどうするか、今の進め方が正しいのかどうか、もの凄い喧嘩もしながら話し合いを行った。

↓

※町内会とは違うかたちをつくり、それをベースにまちづくりを進めていこうとなった。

【自治会地区会】という、町内会によく似ているけれども、町内会よりも広い枠組みの区割りをつくり、そこに30万円ずつの予算もつけた。そこには区長がいて、その役員で、話し合いの時に必要になれば、市民ファシリテーターを呼ぶ。『うちのところの話し合いに市民ファシリテーターに来て欲しい』と相談する組み立てをつくった。

↓

『予算がついているから、その使い方にも責任を持たなくてはいけない、話し合いに責任を持たなくてはいけない、市民ファシリテーターが来るから、恥ずかしいことはできない』と。いろいろな意味で良い仕組みになっているということ。

(仕組みをつくった行政の方の話として…)

- ・ファシリテーション能力に重きを置くのではなく、多くの市民がファシリテーターになること、そういう仕組みが市にあって、多くの市民に会議に参加して欲しいということが大事であると。単にスキルを重要視しているのではないと。
- ・重たい会議や絶対決めなければならない会議で、『ファシリテーションがうまくいかなかった』、『辛くなった』ということは、そこは順番に分かっていくことだから。参加しているのも市民だから分かっていく。『みんなで自治をしながら、対話をしながら、市のことを決めていく。そしてみんなで住み続けて行くということ』が重要。『できないけれど、やっていこう。だから、ファシリテーションのスキルを自分達で上げていこう』と思う気持ち、取り組む前向きな姿勢が大事なのであって、外部から連れて来て、それを結論付けようではなく。と、はっきり話されていた。場が大混乱してもかまわないし、みんなで混乱しながら議論していくことが大事とも。

大きな会議もあれば小さな会議もあって、45人のファシリテーターが結構フルで動いている。地区会での話し合いや、地区会の区割りをもう少し細かくした集まりでの話し合いもある。『話し合いが面白くなった』と言って、自分達が暮らす直ぐ近くの会館で話し合いをするので、どんどん参加して来ていると。

【自治会組織のあり方検討】で、自分達でその仕組みをつくっていかうとしたことが良いと思う。是非、この町でも登録制の【町民ファシリテーター】ができればと個人的には思う。

牧之原市では、現在、高校生も授業の中でファシリテーションを学んでいる。この春卒業した3年生が、初めて1年生の時から学んだ学年。「大学は違う所に行くけれど、絶対帰って来たい」と話す子も。「面白くて面白くて仕方がなかった」「外に出ても怖くない」とも。会議ファシリテーターではなく、【地元を愛していて、地元のことを自分達で決めるという人が育っている】ということが、牧之原型市民ファシリテーターの凄いところと思う。

仕組みをつくった行政の方は、昨春退職したが、今は違うことを考えているとのこと、市民ファシリテーターの授業を中学生や小学生でも行いたい。大人ももっと増やしたい。深い会議ができるような人をつくりたい。それも、養成講座のようなかっちりしたものではなくて、じわりじわりと自動的に育っていく【プロセスデザイン】を考えたいとのことであった。

牧之原型の市民ファシリテーターの仕組みで、それで自治を進めているということを紹介させていただいた。牧之原市は、本当に日本一なので、全部が全部、中標津町でできるわけではなく、良いところを参考にすることやできるところを取り入れると良いのではと思う。

⇒ 委員より

- ・人口はどれくらいなのか？
- ・市長がこの取組を始めたいと思ったのには、どこから調べたのか気になる。

⇒ 東田ファシリテーター

- ・人口は、44,000 人くらい。合併したので。
- ・当時の西原市長は、その講師の方のことを知っていたのかもしれない。
けれども、一年目の講座の講師はその方ではなく、全然違う方だった。

【補足】

静岡県牧之原市

平成 17 年（2005 年）に
旧相良町と旧榛原町が合併して誕生。
中部電力浜岡原子力発電所の
半径 20km 以内に位置する。

⇒ 委員より

中標津町にもその講師の方を呼ぶことはできる？

⇒ 東田ファシリテーター

できると思うが、旅費交通費や謝金等が必要になると思う。

事務局側が考えなければならないこともある。本当に、登録制ということを進めていくのか？ということや、費用をどうするか？など。ただし、まずは、登録制のことについて考えるため、検討するため、どのような講座か？と実際に受講してみるということは、ありだと思う。

講座の内容は、会議ファシリテーションがベースだが、もうひとつ深いところの話。
会議の組み立てだけではなく、一人ひとり個人の話になる。

相手の話を聞くとか、相手に話をするとか、それを記録していくことはどういうことかということ。自分はどのような心持で話をするか、聞くにはどのように心を整えるか、そういうところから始まる。

『話をしたくない時、聞きたくない時もあるよね』ということ、言葉ではなく目や、察することや、言語ではないもので伝えることなどを含めて、勉強しましょうという内容の講座。

会議ファシリテーションについては、まる 2 日のうちの後半の 3~4 時間くらいで学ぶ。その前は、一人ひとりの個人の対話をする、それを記録する、対話をしたことで自分は、どう変わったか、記録をして自分はどう変わったか？ということをしごく丁寧に見ていくというもの。

最初は、不思議な感じでよく分からなかったが、始めて 4 時間くらいが経過すると、参加者の表情が変わる。急激に変わる瞬間がある。自分は、受けるのが 2 回目で、初めてではなかったので分かった。大人なのに急激に変わる瞬間がある。年齢も関係ない。「何が面白いと思って、えっと思いましたか？」と、ヒアリングしたくなった程。

生き方の講座、人としての生き方、一人でも生きていける、二人でも生きていける、会話をしてもいいし、しなくてもいいし。生き方に対して働きかける講座だった。

⇒ 委員より

- ・ 端から見ていたい。
- ・ 怖い。自分が変わっていくのが。

⇒ 東田ファシリテーター

講座を受けて、「なるほど、こういう人達が育っていくと、今すぐには変わらないけれど、1年後2年後には劇的に変わっていくだろうな」と体感した。自分も実際に変わった。

⇒ 委員より

- ・ まちも変わっていくのでは。
- ・ 高校生はいつから受けているのか？
- ・ 中学生でもできれば良い。

⇒ 東田ファシリテーター

変わると思う。この講座を高校生や若い人が受けるとすごく大きく変わると思う。高校生は3年前から。今春卒業した子が、初めて1年生から授業で行った。4～5年前に中途で行った子もいる。育っていく。中学生については、行政側から働きかけた時もあったが、義務教育で学習指導要領もあって、とても時間がかかってしまい、その時は実現できなかったとのこと。

.....

アンケートについて ～『自治基本条例を知っていますか？』周りの人に聞いてみよう～

◆前回の会議では、各委員の結果や実際にアンケートを行っての感想等について共有しました。
ここで、前回会議を欠席された委員より、アンケート結果の発表がありました。

(それを踏まえて・・・)

⇒ 東田ファシリテーター

アンケートをしていただいている、前回もけっこうな数が集まっているが、それをいつまで行うかということをもう一度話し合わなければならないということが、今日一つ目のお題。
年度が変わっても続けるかどうか？今日が一応、今年度最後の会議。

⇒ 委員より

じわじわとやるのはどうか。聞いただけなので、『分からない』で終わってしまうので、分からなかったら、答えを「はい」と渡すイメージではどうか？答えを渡して、『あ、そうだったのだ』と思ってくれれば良いかなと。

多分、それぞれ一通り周りの人には聞いているのではと思う。アンケートをする機会は少なくなるので、時間はかかるけれど、じわじわとやっていくのではどうか。

⇒ 東田ファシリテーター

じわじわと続けるということ？

⇒ 委員より

- ・じわじわと続けていたほうが良いのでは？

アンケート用紙を普段から持っていて、何かの会議の時にする。同じ人に渡しても。それで段々と答えが分かっていくのでは。

- ・渡せる人を増やすこともできれば良いと思う。

⇒ 東田ファシリテーター

それでは、アンケートを続けるということでもいい？

◆（特に、反対意見等なく）会議として、続けることで確認されました。

（２）来年度以降の自治推進会議について

（前回の配付資料等を参照しながら確認、話し合いを進めていく）

⇒ 東田ファシリテーター

表には、どうしても進めなければならない町の計画や議会の回数、選挙のことが載っている。模造紙は、表の自治推進会議の欄の縦部分を抜いたような感じで、ここの３年分。

来年度から３年度分を考えていくが、特にこの２年間の活動内容を考えようというのが、今日のテーマ。また、３年目は見直しの検討をして答申を出さなければならない。

▼事務局より説明▲

配付資料『条例の見直し検討に関する資料（2021年度のこと）』について

《以下、内容要約》

※条例の見直しは、条例施行の日から起算して５年を超えない期間毎に行うこととなっている。（自治基本条例第37条）

- ・前回の見直し時期が、平成28年度で、次回が平成33年度（2021年度）となること。
- ・仮に、見直し検討により『見直しが必要』との答申が出され、町が条例改正の手続きを行う場合には、議決が必要となること。

スケジュール表では、3月末までに答申書となっているが、それよりも早い時期の段階で、答申が出されている必要があること。

- ・条例の見直しを行うか否かは、今後の検討となるが、見直しがある場合を想定した上でスケジュールの設定を考えていただきたいこと。

〔事務局より〕

これまでも、自治推進会議自体は３回。平成28年度もイベント当日を含めての３回。イベントに向けての部会はまた別にあったかたち。

⇒ 東田ファシリテーター

いつになるかは分からないけれど、会議は３回。

⇒ 委員より

- ・ 条例自体を見ていく作業と、イベントを考えなければならない。
- ・ 前回の時は、イベント部会を5回くらい開いたのではなかったか…。
- ・ 会議の委員自体の人数も多く、委員の中からイベントのための部会で5人程度だったような気がする。

⇒ 東田ファシリテーター

ピンク色付箋は、推進会議のイメージ。動かすことができる。その下の帯のところに、皆さんが今まで話し合った『この自治推進会議で何をするか？』『何をやりたいか？』ということを書いていく。青色付箋で【何をしたいか】、黄色付箋で【何をするか】。

◆模造紙と付箋を使って、前回までの会議で話し合い、来年度以降に自治推進会議で行いたいこととした項目（青色付箋）を確認し、その具体的内容の To Do リスト（黄色付箋）について話し合いました。更に、話し合いの中で新たに出てきた意見やコメント等を付箋で追加していきました。 [※話し合い終了後のスケジュールの全体イメージ（別添掲載）]

⇒ 東田ファシリテーター

「自治基本条例を守ってやっているかのチェック」。これは、[じわじわアンケート]のこと？

⇒ 委員より

- ・ [じわじわアンケート] は、条例がどれくらい浸透しているかの確認のためのもの。
- ・ アンケート結果を集計できないか。年度毎で集計しては？
今年度は何人いて、次の年度は何人いると。1年目、2年目と。そうしたら、浸透度が見えてくるかもしれない。
- ・ [じわじわアンケート] と [守っているかチェック] は違う。

⇒ 東田ファシリテーター

青色付箋は、[守っているかチェック]、[じわじわアンケート]、[議会と行政の成果]。
守っているかチェックは、民間のチェックも。そして、[他の地域の進行を知りたい]、[学ぼう]。

[会議風景]

⇒ 委員より

前回会議のホワイトボードには
[チェック、成果の方法も話し合う] と書いてある。

⇒ 東田ファシリテーター

何をするかということとそのスケジュールを考える。

[守れているかチェック] の中には、

部局との話し合いもある。じわじわアンケートの集計。年度毎に。



⇒ 委員より

- ・アンケートをデジタル的にできないか。
- ・FM はなで募集するのはどうか。 ・業者に依頼するのはどうか。

⇒ 東田ファシリテーター

〔他の地域の進行を知りたい〕については？

⇒ 委員より

- ・前回、勉強会をしたので良いのでは？
- ・必要に応じてではどうか？
- ・他の条例を見て、『このようなものがあるから追加しなくては』ということがあるかもしれない。条例の読み込みは必要。一番新しい橋本市など。

⇒ 東田ファシリテーター

〔学ぼう〕については？

⇒ 委員より

- ・広報紙のタイトルを柔らかい表現にしたいということだった。

⇒ 東田ファシリテーター

〔区割り〕については？

⇒ 委員より

都市計画区域と学校の区域と町内会の区域が重なっていないので、見直しをして欲しいというもの。考えていきたいということ。

⇒ 東田ファシリテーター

合同会議をしなければならないなど、自治推進会議だけで済む話にはならないと思う。もの凄いことになると思うが、どうか？

⇒ 委員より

自治推進会議では、【こうしたほうがいいのでは】という考えを示す程度になるのでは。

【その方が、進めやすいですよ】という内容で。

◆ここで、本間副会長が持参した地図データ資料を回覧し、解説がありました。

⇒ 本間副会長

地図上で区割りを重ねた。赤線が学校区。紫線が町内会、緑線が都市マス。
自分で打ち込んでみたが、感想としては、結構バラバラだと思った。都市マスは、都市マスで。
広陵中と東小が分かれていたり。これは、まとまらないなと思った。

⇒ 委員より

- ・地図を見ると、よく分かる。少しでも調整できれば、すっきりする。
- ・ごちゃごちゃしている。
- ・町内会の範囲もバラバラ。街中は小さくて、外側はすごく広いし。
- ・増えても、その後分割していない。そのままにしているから。本来は、人数での整理をすべきだったが、していなかったところもある。
- ・昔は、泉の町内会も１つだけだった。そこに人口が急激に増えたので割った。公住ができたので戸数が増えた。

⇒ 東田ファシリテーター

『どこかで、その動きをして欲しい』と、景観の関係で行ったヒアリングの際に町内会長さんからも言われている。正式なヒアリングで。

自治推進会議でも、都市マスでも、景観でも、学校は学校のほうで、同じ悩み。町内会の区割りをどうするかと町内会の人達もそう言う。『どこかで、合同会議をして、変えるということとはできないものか？』との声もある。

⇒ 委員より

自治推進会議が一番良いのでは。ここは条例のあたまだから。ここで何か言うことができれば良いのでは。

⇒ 東田ファシリテーター

景観や都市マスのほうでも言われ、まちづくり協議会や学校、町内会のメンバーからも言われる。計根別地区の町内会のメンバーからも言われる。「何年かかけてできないのか？」と。期待されている。みんな同じ話になる。

⇒ 委員より

- ・実際、現場での苦しみがある。　・自治振興区のようなものができれば。
- ・町内会の集合体としてはどうか。
- ・区で分けるとまとまりづらいから、3 つくらいで。それとは別に班などで、まとまることできれば良いのでは。
- ・例えば、東小の学校運営協議会で何かをしようとする、今は、10 の町内会にそれぞれ言わなければならない。そこにまとまりがあったら、そこ経由で一度言えば、全部に伝わることになるのに…と思う。

⇒ 東田ファシリテーター

総合計画の策定の中で、その話ができれば良いとも思う。重たい内容である。こういう会話ができるメンバーがそれぞれの団体にいて、みんなが同じ話をしている。

⇒ 委員より

今、町内会が消滅しようとしているから、余計にそうなのでは。

⇒ 東田ファシリテーター

そう思う。同じように【危機感】をみんなが感じている。いろいろなところに、このように話せるメンバーがいて、町長もそういう方の内にできるのではないかと。次の時では、そのメンバーが欠けたりしてできないのではないかと。じわりじわりとできればと思っているのではないか。

⇒ 東田ファシリテーター

【意見交換会】については？

そのときのテーマとして話し合った【町内会加入率を増やしたい】について、中標津町は、自治基本条例の中に町内会のことをはっきりと入れて、【自治】にとってとても大事なものであると位置付けたことから、そこが特に大事なところにあるのではないかとということ。

⇒ 委員より

- ・もっとインパクトのあるキーワードでのテーマはどうか？
「町内会が消滅します。どうしますか？」というようなイメージではどうか。
- ・中心部の状況は、リアルである。
- ・中心部だけではない。みんなリアル。だから、そのような切り口ではどうか。

⇒ 東田ファシリテーター

これまでの話し合いの中で言っていたのは、青色の付箋で書き出して、それに付随する To Do リスト的なものは黄色の付箋で書き出していただいた。来年再来年と続いていく。3 年目で答申となる。2 年間で行わなくてはならない。もしかしたら、プラスで「あれもしよう」、「これもしようよ」と出てくるかもしれない。それを考えようということ。青色の付箋は、その種類で良いのか？ということ。若しくは、プラスしていくのか？ということも。

◆ここで、青色と黄色の付箋を貼った模造紙を掲示して、付箋の移動や追加をしながら協議を進めました。

⇒ 委員より

- ・[守っているかチェック] は、
各部局との話し合いでは？行政との話し合い。
- ・行政は、たぶん「やってますよ」と言うのではと思う。
- ・行政評価もしている。
- ・こちらから見てのものとどう擦り合うか合わないかでは。
- ・なかなかの難しさがあるのでは。
チェックは膨大になる…。
- ・前に、部長さんたちが、並んで話をしたもので？

[会議風景]



⇒ 東田ファシリテーター

行政評価をして、自治が進んでいるかどうか分かる？

⇒ 委員より

自治推進会議でしてみたけれど、うまくいかなかったから、続けていないのでは。

【補足】

自治基本条例施行当初の平成 24・25 年度は、

自治推進会議において、行政評価外部評価を実施した経緯あり。

平成 26 年度以降、自治推進会議とは別組織として外部評価委員会を新たに設置している。

⇒ 東田ファシリテーター

何を聞けば、自治が進んでいるかどうか分かるか？行政的に。

何が重要なのだろうか？自治が進んでいるか？という言い方だと間違っているかもしれない。

【自治を進めるためにきちんと情報共有しているか？】ということでは。

⇒ 委員より

・まちづくり町民アンケートで何か分からないか？と思う。

・【情報共有をやっているかどうか】ということでは。そこをチェックしていくことでは。

〔事務局より〕

様々な行政の仕事があり、その中で取り組もうとしていることをどこまで住民の方に知れ渡っているかということ。

⇒ 委員より

・町民が知っているか、【共有】ということは、【知ってもらっているか？】ということなので、そのことの評価をきちんとしておかないとダメなのでは。

・町内会の話し合いの時などで、出席した方の言葉の端々に『あの建物は、どうしてできたの？』『急に建ったの？私は知らない』と出ることがある。その辺も含めて、もう少しどうにかなれば、受けて側もきちんと受け止めるようになるかなと思う。

⇒ 東田ファシリテーター

そのことについて聞くなれば、聞くための質問票をつくることになる。今は大まかに話をしているが、そのためだけに、内容をきちんと整理しないと質問もできないということ。

情報共有と言っても、それぞれの部局で方法が違っている場合もあり、また、何の情報を共有してもらいたいのかということもある。こちら側が、「この情報を共有してもらいたい」と思っても、相手側はそう思っていなかったという場合もある。

自治基本条例をつくった時に、「何を共有してもらいたいのかというルールをつくっていただろうか？」と思い起こしているところ。

⇒ 委員より

- ・例えば、人口動態について、以前は PDF で公表されていたが、平成 24 年度で止まっている。
- 自分は、このことがとても困っている。
- ・そういうことの見直しなのでは。

⇒ 東田ファシリテーター

「じゃあ、どうすれば進むの？」ということを、ここで何回か話し合わないダメなのでは。

⇒ 委員より

行政評価では、情報共有については『やっています』となっている？

[事務局より]

行政評価の外部評価の中でも、情報共有のことについての意見が出される。そこで、課題となるのが、行政の情報発信『手段』についてであり、その手法は、SNS や広報紙、まちづくり出前講座等だが、その中でも圧倒的なものが、全戸に配布される広報紙。「広報紙に載せました」、「まちづくり出前講座に出かけて行きました」と説明しても、『自分には行っていないから』『読んでいないから』と言われてしまうと、行政側からすると、どうしていいのかわからなくなってしまうこともある。これ以上何をすべきなのかという場面もある。そうすると、詰まってしまう。物事も進めなければならない、情報発信もしなければならない。そして、そこでは、合意が取れるか否かというところまで検討しなければならないこともある。そこが常に民間の方々とお話をする時に食い違うところでもある。

⇒ 東田ファシリテーター

どう情報を共有すればいいのかということでは。

[事務局より]

外部評価の意見の中には、『行政は、もう少し工夫しなくてはダメ』、『できることはやりましょう』と。その一方で、民間の方である外部評価委員からは『町民も、受ける姿勢を取らなければならないのでは』との意見も。『せっかく、町は費用をかけて広報紙を出しているのに見ないのは…』と。広報紙の条例解説の話題の中にも出てきた『文字がたくさん書いてあると見ない』ということに関して、その辺をもっと変えなければならないのではと考えている。広報紙の担当者にも、そのことを伝えている。

⇒ 委員より

- ・情報の受け方と出し方なのでは。
- ・そういう話を各部局から聞いて、「どうしたらいいのか？」ということを考える。
- 『受けて側も、もう少し何かしなければダメ』とのイメージを持っていく。

⇒ 東田ファシリテーター

その一方で、そのような内容についての話し合いをここの会議でするのか？ということがある。ここの責任なの？と。アイデアを考えるのはここなの？と。

⇒ 委員より

自治推進会議でそのアイデアを考えるというのは、違うのではと思う。

ここは、「きちんと検討して進めてください」ということを言うところなのでは。

[事務局より]

指摘やアドバイスを受けて、行政は、今度どうするかということを考える。

⇒ 委員より

前回の答申でも、そのことについて言っている。

[事務局より]

自治推進会議でもそうであるし、行政評価の外部評価でもそう言われている。一生懸命に、行政側は発信しようとしているけれど、なかなか受け取ってくれない。その一方で、町民側からすると、『ああいう書き方では見たくないでしょ』となるのも分かる部分もある。

⇒ 東田ファシリテーター

ぐるぐると、堂々巡りになっている感じのよう。

守っているかチェックに関しては、こういう課題があるということなのでは。まだ、どこに付箋を置くかについては決められないけれど…。

⇒ 委員より

- ・じわじわアンケートは、【じわじわ浸透させる】というイメージでは。

自治推進会議の委員自らが、「自治基本条例はこういうもの」と伝えて、少しずつ、一人でも二人でも知っている人を増やしていくという意味。

- ・数値目標は、必要か？

- ・必要ないのでは。

- ・1年目アンケートを続けてみて、2年目3年目に、また考えるということではどうか。もしかしたら、良い結果になるかもしれない。

- ・総合発展計画でもそれぞれ数値目標があるのだから、つけないとダメでは？

- ・自治推進会議では、つけなくても良いのでは。ここでつけたら大変なので…。

⇒ 委員より

- ・アンケート用紙を常に持っていないと、渡せないから無理では？

- ・スマートフォンで回答できるアンケートがあれば良いのかもしれない。

- ・1回のアンケートだけでは、浸透しないのでは…。

- ・アンケートの数を毎年増やしていくのではどうか？渡す人を増やす。

- ・アンケート用紙を忘れてしまったら、渡せない。
- ・何かの会議の時に渡すのはどうか。 ・アンケートボックスを置かせてもらうのはどうか。
- ・町のホームページから入力できないのか？そうできれば、都度アンケート用紙持って行かなくても良くなる。

[事務局より]

入力に関して、外部用では対応が難しい。

⇒ 委員より

- ・ごみ収集の日のお知らせのように、トップページに更新されていると良いが。
- ・それでは、浸透していかないと思う。アンケートに回答してもらい、答えを見せるということで、「自治基本条例はこうだ」ということを、一人ひとりに説明することが良いこと。別に、多くアンケートをするという意味ではない。知っている人を増やすこと。
地道な取組。何かの時に言っていただいて、「こうだよ」と伝える。
- ・委員それぞれの名刺に書くのはどうか？
- ・自分達でQRコードをつくるのが問題ないのであれば、つくすることもできる。
- ・答えを見ることができるコードもあれば良いと思う。
- ・アンケートをすることの主となるのは、【知っている人を増やしたい】ということで、それには、何ができるか？ということなのでは。
- ・簡易な、マンガとは言わないまでも、活字だけではなくて、要点を挙げたものをつくるのができれば、つくってはどうか？
- ・冊子はどうか。

◆ここで、佐々木会長より、持参資料「現在の姿と目指すべき姿」について解説がありました。

⇒ 佐々木会長

自治基本条例とはまちづくりであるが、それぞれに町民と行政と議会がある。

町民は、【町民参加】で、権利もあるけれど役割もある。「町内会活動や行事に参加してまちづくりをしていきましょう」となる。行政は、総合発展計画や都市マスなど様々なことを進めて、行政サービスを提供することの責務がある。議会は行政と繋がって、議案の承認など情報共有しながら、役割と権限、責務がある。このことは、それぞれ自治基本条例に載っている。この3つの関係で、それぞれが情報を共有しながら、まちはつくられていく。

町民は、「町民参加して欲しい」、「町内会に入って欲しい」となるが、実際のところ、矢印としては細い。情報共有に関して、町民と行政の間では、まちづくり懇談会やホームページと様々行っているが、とても進んでいるか？となると、[まだまだ]との印象がある。行政と議会の間では、完全にガチガチの状況。議案を出す、承認するなどがある。議会と町民の間では、議会報告会の実施や議会だよりの配布があるが、十分進んでいない状況もある。

まちづくりに関しても、行政は、行政主体となってしまうている。そして、町民は町民で行い、議会は議会で行っている。本来は、まちづくりの矢印が、全部同じ大きさになっている必要がある。町民は、町民参加でまちづくりを行う。行政も、行政だけで背負わないで、町民と一緒にまちづくりを行う。議会も、情報共有とともにまちづくりも行う。議会と町民もしっかり繋がっていく。議会報告会、懇談会を細かく行うなどにより、町民の意見を多く吸い上げる。そうすることで、まちづくりが更に進んでいくのではと思う。

このようにイメージすることができて、分かりやすいものがあると良いのでは。細かく書くよりも良いのではないかなと思う。

⇒ 東田ファシリテーター

青色の付箋で「分かりやすい冊子をつくる」の追加を。

⇒ 委員より

- ・そこにタイトルをつければ、分かりやすいのでは。
- ・ニセコ町は、ポケット版がある。
- ・知らせるのであれば、例えば、先程のアンケートのように、QRコードをつくって、条例の大まかな内容を見ることなどができれば、より簡略化になるのでは。どうやって、つくるか？との課題はあるが。
- ・広報紙の一部分に載せるなど。広報紙の中に、イメージの図が入っているのはどうか。
- ・若い人は、スマートフォンを使うから、ソーシャルメディアを使うことはどうか？QRコードにかざすだけで、見ることはできれば。
- ・町民から動きの矢印を太くすることが一番難しいと思う。

【目指すべき姿】のかたちが理想だが、矢印が細い部分がある議会もお願いをすれば、太くなると思うが、【町民全員が】となるとそこが一番難しいと思う。

- ・自治基本条例が浸透して、まちづくりが進むと、「将来なるかもしれないね」というかたち。
- ・一般的には、一生懸命の人が2割、そこそこの人が6割、全然の人が2割。
- ・地域リーダー育成プロジェクトは、若い人に浸透させて、【町内会はこういうもの】と必要性について学ぶということでは。そして、地元に戻って来て興味を持つということができれば。
- ・各団体は、まちづくりをそれぞれで行っているが、【いろいろな思い】を持って活動している。【町民】と考えると、どうしたらいいか？と思う。なかなか難しい。

⇒ 委員より

- ・牧之原市の事例で、『大人との会議が、楽しくて仕方がない』と感想の高校生がいた。『地元を愛して自分達で決めていく』と。そのことは、じわりじわりと自動的に育っていくプロセスデザインとのことだが、この前、東小の学校運営協議会で、役員の方から子どもとの熟議をしたいとの意見を言ってくれたが、そういうことではないかなと思う。子ども達が大人の中に入ることで【楽しい】となってくれたら、このことは達成できるのではとも思う。自治推進会議ではなくて、学校運営協議会として進めていくのはどうか。



【会議風景】

- ・区割りのことについても、学校運営協議会でも話し合う場があるので、それと関連付けたほうが進みやすいのではないかなと思う。
- ・そうならば、町民パワーの矢印が増えていくのでは。学校運営協議会は地域の人間として進めていくことになるから。
- ・中高生が一番のターゲットではないか。社会人になってからは、なかなか難しいと思う。中高生の段階から、徐々に芽生えてくれれば良いが。

⇒ 東田ファシリテーター

[学ぼう]をやわらかい表現にしたい。タイトルや中身を考えることでいい？

⇒ 委員より

- ・広報紙の連載は、議会についての入り口まで来ている。半分。あと2年はかかる？
- ・内容については、変えられないのでは。今のままでいくしかないのでは。

⇒ 東田ファシリテーター

[守っているかチェック]に関して、議会のことをきちんと書いておかないとダメだと思う。

自治基本条例をつくる時には、議会側から『入れてほしい』との希望があって、条文に入れた経緯がある。たくさんの説明も受けて、「じゃあ入れましょう」となった。だから議会自体も、守っているかのチェックをきちんとしなければと思う。

⇒ 委員より

- ・議事録を見るため、議会事務局に行ったことがあるが、行かなければならないことが煩雑に思う。是非、ホームページで公開して欲しい。ホームページで公開したら、議会と町民の間の情報共有の矢印は太くなるのでは。
- ・議会だよりは、抜粋で、全文ではないのでは。
- ・全部の内容の議事録を作成していると思うので。公開は、後々でも良いから。直ぐその場でとは言わないので…。

⇒ 東田ファシリテーター

[意見交換会]について。団体や団体の種類毎に集まって【町内会加入率について話す】。

⇒ 委員より

- ・総合計画と一緒にすることはできないか？
第6期計画の時には、分野に分かれて行ったと思う。生活分野など委員が集まって話をしたような気がする。 ・総合計画の内容では？

[事務局より]

総合計画の策定に関して、進め方については今後考えていかなければならないので、そういう場面も出てくると思われる。前回にそのようなかたちで進めていたのであれば、極端に変えることはないと思う。もう少し待っていただければ、進め方が見えて来る。

⇒ 委員より

- ・ そのように進めれば、意見交換会は、達成できるのでは？
- ・ 町内会加入率や町内会が消滅してしまう問題については、できればフォーラム的のもので、学生や各団体の人を集めて何かして欲しいと思う。意見を出し合って欲しい。なるべく、早い時期に。そして、例えば、商工会や飲食店連合会、建設業協会、各団体や学生、行政、議会、町民は連合町内会や町内会を含めた人達が、一堂に集まっての話し合いを。
タイトルは、【中標津町の町内会が消滅します！！】などにして。「そうしたら、どうしますか？」と。「無くなってもいいでしょ」との結論が出るかもしれないけれども…。
- ・ 町内会に入っているメリットをアピールしないことには。
- ・ メリットではなく、デメリットを挙げるべき。「町内会が無くなったらどうなりますか？」ということを町民の皆さんに考えていただきたい。例えば、「町内会が無くなったら、ゴミが道路に散乱します」「草は刈っていません」「犬のフンは落ちています」「ゴミ箱は誰が清掃するのですか？」など。
- ・ デメリットで人が動くのだろうか？
- ・ 【町内会が、無くなったら困る】ということで、「どうしたらいいか？」となって欲しい。

次の会議をいつにするか、その内容について

⇒ 東田ファシリテーター

これまで、青色の付箋【しなくてはならないこと】、黄色の付箋【To Do リスト】を付けた。いつから始めるかということが、まだ決まっていない。付箋を動かすこともできるし、もっとTo Do リストを増やすこともできる。2年かけなくてはならないのか、1年半でいいのかなども含めてできる状態となっている。

付箋に書いてあるけれど【ここの会議だけで話せることではない】ということや、【総合計画との連動が必要では】という内容もあるが、取り急ぎ話し合わなければならないのは、来年度の1回目の会議をいつにするか？ということ。この分量程度から考えて、【いつ？】ということを決めないと、事務局も自分も困る。それだけは、イメージしていきたいと思う。

イベントも来年度中とするのであれば、早めだと思う。仮に、意見交換会をしなければならないのであれば、早くから動かなければならないだろうと思う。

⇒ 委員より

イベントは、できれば早めにして欲しい。

最後になってしまったら、結果・成果が分からない。イベントを実施して、結果がじわじわと広がるのではないかとと思う。

⇒ 東田ファシリテーター

そう思う。12月か、1月か、2月かは分からないけれど、できればと思う。

⇒ 委員より

- ・[学ぼう] は、このままで行くしかないのでは。
- ・タイトルは、変えることができるのでは？

[事務局より]

これまで進んでいるので、ひと通り条例解説は続けなくては。そういう見直しはできない。

⇒ 委員より

- ・[知りたい] もじわじわと話をして行って、最後の答申の時に一気に進める。
- ・学校運営協議会を絡めるのであれば、早めのほうがいいと思うが。
- ・次年度で、東小をゼロケースとするのはどうか、
- ・[地域リーダー育成] については、東小での取組をテストケースとして、そこでの意見を聞いてはどうか。

⇒ 東田ファシリテーター

ここ自治推進会議で行うわけではないけれど……。

⇒ 委員より

- ・他の運営協議会はそこまではいかないと思う。東小は進んでいるから。
- ・2020 年度になれば、地域学校協働本部というのができて、全小中で話が動くようになる。
- ・運営協議会を通すことなので、ここでは何とも言えない。校長先生の計画を承認するという協議会の役割なので、校長先生が『行いたい』となって、そして協議会の委員さんが『いいですね』となると進んでいく。

⇒ 東田ファシリテーター

会議については、6 月に第 1 回。次がフォーラムの時。3 回目は全体の振り返り。第 1 回目と第 2 回の間に実行委員会を。地域リーダー育成については、東小でテストケースとして別枠で行うことでいい？

区割りについては、皆さんがそれぞれ入っている会議の中でじわじわと言う。**フォーラム**は、12 月頃。すぐに第 1 回目の会議から話し合いができそうなのは、**守っているかチェック**。そして、常に持っていて続ける**じわじわアンケート**。

⇒ 委員より

- ・[学ぼう] のタイトルを変えられる？
- ・学ぼうは、学ぼうのままで、変えるのは、サブタイトルだけで良いのでは。

⇒ 東田ファシリテーター

タイトルは変えることができる。

学ぼうのサブタイトルは、6 月に決めるということ。

⇒ 東田ファシリテーター

来年度の会議の開催題材と行う内容をだいたい決めた。

第1回目には、もう少し細かくということになる。

⇒ 委員より

第1回目の会議は、なるべく早めに。6月頃ではどうか。

◆（特に、反対意見等なく）日付は調整後となりましたが、開催月は6月で確認しました。

⇒ 東田ファシリテーター

フォーラムを境に、少し重たい内容の方に進んでいくということでもいい？来年度を進めて、また考えて再来年度を考える。みんなで考えたことが増えていく、複雑なものが増えていくというイメージ。最後の年度は、答申の時期が、前のほうに来る。

⇒ 委員より

- ・フォーラムは前回のようなものになるのか？
- ・来年度は濃い。

⇒ 東田ファシリテーター

そう思う。これで決まりということでもいい？

多い時は、減らすこともできる。「これはなくても」として減らすことや、時期を動かすことも。辛くなったらやめることもできる。

⇒ 委員より

- ・フォーラムでは、ワールドカフェをすれば意見交換会ができる。
- ・そのほうが良いのでは。意見交換するもので。
- ・フォーラムで講師の方を呼ぶのはどうか？
- ・学習会をしてフォーラムをするのは？
- ・時間的に厳しいと思う。

⇒ 東田ファシリテーター

両方は無理だと思う。一杯いっぱいになってしまうと思う、お互いに。

（3）振り返りと確認

⇒ 東田ファシリテーター

来年度は、守っているかチェックをベースにして、じわじわアンケートを、皆さんがじわりと続けて、そしてフォーラム。

一番大事なのは、【フォーラム】。次に【守っているかチェック】と【じわじわアンケート】。

⇒ 委員より

フォーラムという名前が良いのかもあるが。

(4) その他

事務局より、次回会議日程について確認しました。

※第1回目の会議の開催時期を6月とすることについて、会議の中で合意したこと。

(具体的な日程は、調整の上であらためて連絡する旨)

4 閉 会